

第2章

現状と課題

- 1 社会環境の変化
- 2 川越市の現状
- 3 第三次川越市生涯学習基本計画の進捗状況
- 4 課題

第2章 現状と課題

1 社会環境の変化

(1) 人生100年時代の到来

「人生100年時代」の到来により、これまでの年齢などで区切られた「教育→仕事→引退」といった一方通行の人生ではなく、マルチステージの人生へと移行していくことが予想されます。また、長寿化に対応した、引退後も多様な学習機会が提供され、学習した成果を生かせる環境の整備が求められます。

また、「人生100年時代」を豊かに生きるためには若年期の教育、生涯にわたる学習や能力向上も重要となります。

そのため、誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を生かすことのできる環境が求められます。

(2) 持続可能な開発目標（SDGs※³）

2015年の国連サミットでは、「持続可能な開発目標」（SDGs）が採択され、「地球上の誰一人として取り残されない」をテーマに、持続可能な世界を実現するための169の関連ターゲットを伴う17の目標が定められました。その中では、教育について、全ての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進することとされました。

そのため、様々な困難を抱える人を始め、誰もが取り組める生涯学習の環境整備を図る必要があります。

※3 SDGs

「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。2015年9月に国連で開かれたサミットの中で、世界のリーダーによって決められた国際社会共通の目標。

(3) 外国人住民の増加

令和2（2020）年1月1日現在の日本の在留外国人数は、286万6,715人で、前年に比べ19万9,516人（7.48%）増加し、過去最高となりました。これは日本の総人口の2.28%を占めており、日本社会における外国人の存在感が高まりつつあります。

本市においても、外国人住民は増加しており、本市に住民登録をしている外国人住民は令和2（2020）年1月1日現在8,799人で、川越市民の2.49%を占めていることから、外国人住民の増加に対応するため、多文化共生に関する学習機会の充実を図る必要があります。

(4) 新しい生活様式への対応

新型コロナウイルス感染症の発生・流行は、「新しい生活様式」など、人々の日常生活のあり様にまで変化を与えようとしています。

そのため、今後は「新しい生活様式」を実践し、安全・安心な、生涯学習を身近に行える学習環境を整える必要があります。

(5) ライフスタイルや価値観の多様化

人々のライフスタイルや価値観が多様化し、余暇時間を有意義に活用して趣味やスポーツを楽しむなど、物の豊かさよりも心の豊かさを重視した成熟社会へと変化しています。

今後は、市民それぞれのニーズに応じた学習活動を、いつでも、どこでも行える環境作りが求められます。

(6) 環境問題等の深刻化

現代社会は、環境問題、エネルギー問題、食糧問題等様々な課題に直面しており、市民の関心も高まっています。

今後は、市民一人ひとりがこれらの問題を意識し、理解を深め、具体的な行動に取り組めるよう、様々な課題に対応した学習機会の創設が求められます。

(7) 子どもの生活環境の変化

近年、少子化や高齢化、子育て世帯の核家族※⁴化、共働きの家庭の増加、ゲームやパソコン・テレビに依存した生活等を背景に、家族のふれあいの機会や生活体験を積み重ねる機会が減少しています。そのため、子育てについての悩みや不安を多くの家庭が抱え、子どもの社会性や自立心などの発達をめぐる課題等が生じています。

そのため、家庭、地域の教育力の向上と、学校・家庭・地域の連携の推進が必要です。

※4 核家族

1組の夫婦と未婚の子どもだけによって構成される家族のこと。

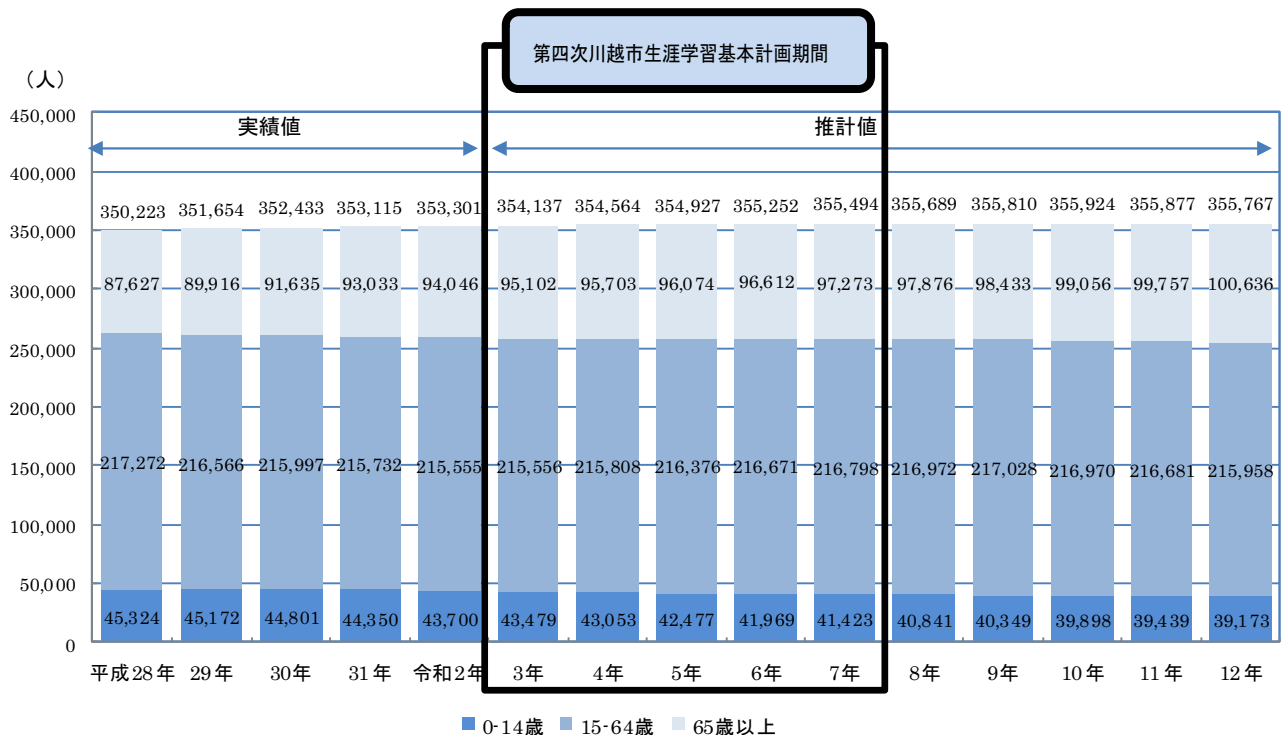
2 川越市の現状

(1) 少子高齢化の進行

本市の人口は令和2（2020）年時点で353,301人ですが、計画が終了する令和7（2025）年には355,494人となり、約2,200人の微増となることが見込まれます。その後、令和10（2028）年を境に人口減少局面に転じることが見込まれます。

また、人口構成の推移をみると14歳以下の年少人口は年々減少し、65歳以上の高齢者人口が増加することが推計されます。

少子高齢化や人口減少が進行していく中で、一人ひとりが可能な限り自立に向けて取り組むとともに、もてる力を最大限発揮し、社会の中で活躍できるよう、生涯学習を推進していくことが求められます。



川越市の人口推計結果

出典：川越市住民基本台帳人口（各年1月1日）

令和3年以降は市推計

(2) 令和元年度川越市文化芸術及び生涯学習に関する意識調査

この生涯学習に関する意識調査は、市民の生涯学習に関する意識と具体的な活動状況について調べ、今後の施策策定の基礎資料とするために実施しました。

①今後どのような「生涯学習」をしてみたいと思いますか。(複数回答可)

(性別)

回答割合(単位%)

区分	回答者数(件)	趣味的なもの	教養的なもの	健康・スポーツ	家庭生活に役立つ技能	育児・教育	職業上必要な知識・技能	パソコン・インターネットなどの知識・技能	ボランティア活動やその他の必要な知識・技能	自然体験や生活体験などの体験活動	その他の活動	学習をしたいとは思わない	わからない	無回答
男性	575	37.7	30.4	49.6	15.3	4.3	18.6	23.7	13.9	15.5	1.2	5.7	6.3	6.6
女性	732	50.0	28.4	50.0	33.1	11.2	15.6	20.4	13.1	15.6	0.5	4.5	5.3	6.4
その他／ 答えたくない	7	28.6	—	14.3	—	14.3	14.3	14.3	—	—	—	14.3	42.9	—

(年代別)

回答割合(単位%)

区分	回答者数(件)	趣味的なもの	教養的なもの	健康・スポーツ	家庭生活に役立つ技能	育児・教育	職業上必要な知識・技能	パソコン・インターネットなどの知識・技能	ボランティア活動やその他の必要な知識・技能	自然体験や生活体験などの体験活動	その他の活動	学習をしたいとは思わない	わからない	無回答
18・19歳	8	62.5	25.0	62.5	37.5	12.5	37.5	37.5	25.0	37.5	—	—	—	—
20～29歳	103	55.3	29.1	59.2	43.7	21.4	33.0	27.2	9.7	18.4	—	1.0	4.9	2.9
30～39歳	189	46.0	30.2	45.0	33.9	22.8	33.3	24.3	10.6	26.5	1.6	2.1	3.2	4.8
40～49歳	231	51.5	31.6	52.8	26.4	12.1	24.7	23.4	14.7	16.5	0.9	3.9	6.5	2.2
50～59歳	191	45.5	35.6	53.4	21.5	4.2	20.4	23.6	16.2	19.9	0.5	2.6	4.2	5.2
60～69歳	251	43.0	29.9	49.8	24.3	1.2	6.0	21.9	14.7	12.4	0.4	6.8	8.0	5.6
70歳以上	337	35.3	22.6	44.2	15.7	0.6	3.3	16.3	12.2	6.2	1.2	9.2	7.1	13.1

性別で見ると、男性に比べ、女性で「趣味的なもの」「家庭生活で役立つ技能」「育児・教育」の割合が高くなっています。

年代別で見ると、他の年代に比べ、20～29歳で「趣味的なもの」「健康・スポーツ」「家庭生活に役立つ技能」の割合が、20～29歳、30～39歳で「育児・教育」「職業上必要な知識・技能」の割合が高くなっています。

性別、年代別のいずれも「健康・スポーツ」「趣味的なもの」の割合が多く、心身共に健康で生きがいを持って生活したいとの意向が読み取れます。また、どの項目も一定の割合を示していることから、価値観の多様化や様々な学習ニーズが求められていることが分かります。

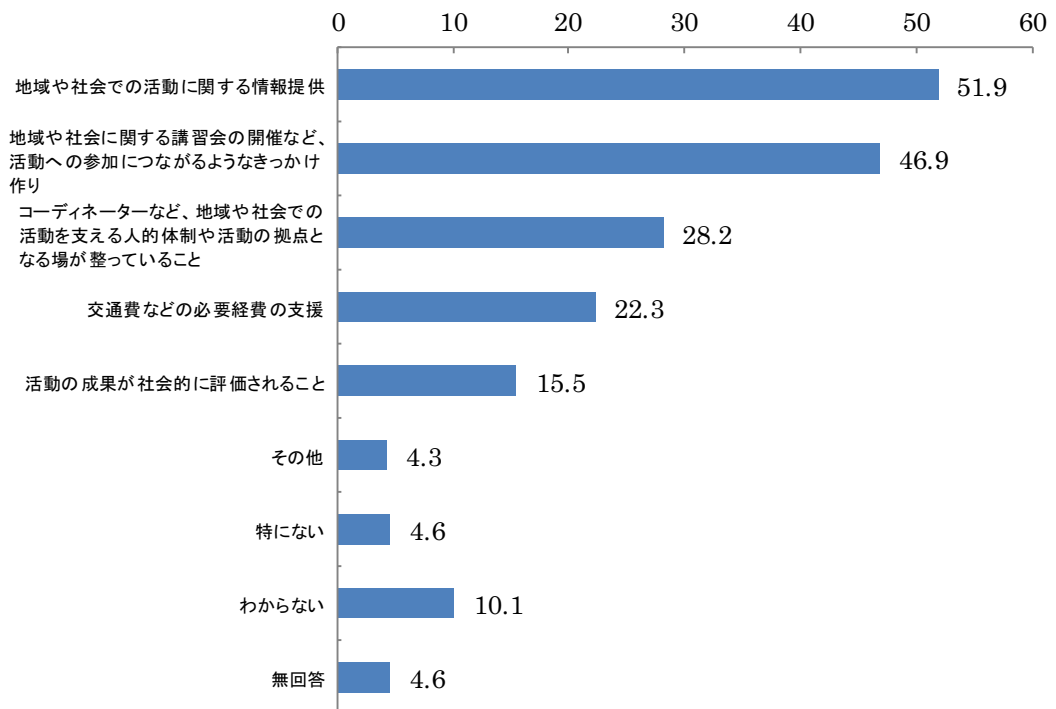
ライフスタイルや個人の生き方、価値観が多様化しており、生涯を通じて健康で生きがいのある人生を送るため、様々な学習機会の充実が求められています。

今後も引き続き、市民一人ひとりが生涯学習を通じて心身共に健康で生きがいを持って生活できるよう、各課題やニーズに応じた多様な学習機会が求められます。

②多くの人が地域や社会での活動に参加するようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

回答数=1,338

回答割合（単位%）



「地域や社会での活動に関する情報提供」の割合が51.9%と最も高く、次いで「地域や社会に関する講習会の開催など、活動への参加につながるきっかけ作り」の割合が46.9%となっています。

多くの人が地域や社会での活動に参加するためには、市民と行政と関係機関が連携し、事業等を推進していく必要があります。

そのためには地域や社会での活動に関する情報提供や参加につながるきっかけづくりが重要となります。

今後は、より多くの市民に生涯学習活動に取り組んでもらえるよう、市民と行政が連携した事業の推進を図り、インターネット等の情報発信ツールを活用した積極的な「情報提供」と「活動への参加につながるきっかけづくり」に努める必要があります。

③市民活動・生涯学習施設（ウェスタ川越2階）にどのような運営・役割を期待しますか。

回答数=1,338

項 目	回答割合
活動室・会議室などの貸出	6.1%
多様な生涯学習講座の実施	22.9%
学習講座やイベント情報の提供	13.8%
利用者への相談支援業務	3.3%
打ち合わせスペースの提供	1.2%
その他	1.6%
特に期待することはない	9.1%
施設があることを知らない	20.3%
無回答	21.7%

「多様な生涯学習講座の実施」の割合が22.9%と最も高く、次いで「施設があることを知らない」の割合が20.3%となっています。

誰もが利用しやすい学習環境をつくるには、生涯学習関連施設の更なる魅力の向上と、市民へのPRが必要です。そのため、市民が期待、希望する講座の実施や、施設の運営、情報の発信が求められます。

今後は、新しい生活様式を実践しながら、生涯学習を身近に行える学習施設を目指します。



川越市提案事業講座（左：チェス 右：絵画）
市民活動・生涯学習施設（ウェスタ川越2階）

3 第三次川越市生涯学習基本計画の進捗状況

第三次川越市生涯学習基本計画では、達成状況を4つの基本目標ごとに具体的指標を2つずつ設定しました。

①基本目標「生涯学習を推進する体制の充実」

指標	単位	実績値 H28 年度	実績値 H29 年度	実績値 H30 年度	実績値 R 元年度	目標値 R 2 年度
提案型協働事業補助金※ ⁵ 応募件数（提案型協働事業の年間の応募件数）	件	11	12	8	11	17
市民講座※ ⁶ 開催数（市民講座の年間開催数）	件	48	44	49	47	53

ライフスタイルや価値観の多様化を背景に、学習内容や方法、活動時間等市民の学習ニーズも多様化しており、市民一人ひとりが自分にあった学習を選択できる環境づくりが必要です。

そのため、前計画では地域の教育機関との更なる連携の強化を図り、学びやすい環境を整え、学んだ成果を生かす場の提供等の生涯学習の推進に努めました。

基本目標「生涯学習を推進する体制の充実」の指標「提案型協働事業補助金応募件数」、「市民講座開催数」は、安定した実績値となりましたが、両事業とも目標値には届きませんでした。そのため、今後も引き続き情報提供等を行い、応募件数、開催数の増加を図る必要があります。

※5 提案型協働事業補助金

市民活動団体等が地域のさまざまな課題を解決するために、主体的に取り組む協働事業に対して、協働によるまちづくりを推進するためにかかる経費の一部を補助する制度。

※6 市民講座

川越市と市民との協働で開催する市民による市民のための講座。この市民講座は、市民（講座主宰者）が企画・運営する講座で、川越市は会場の手配と受講者の募集等を行っている。また、市民が学習した成果を生かす役割を担っている。

②基本目標「家庭や地域の教育力向上」

指標	単位	実績値 H28 年度	実績値 H29 年度	実績値 H30 年度	実績値 R 元年度	目標値 R 2 年度
子どもサポート事業※ ⁷ への参加者数（市内14地区の子どもサポート事業への年間参加者数）	人	50,841	43,368	40,989	37,690	33,330
公開講座等の講座数（公民館登録グループ※ ⁸ の公開講座等の講座数）	件	237	256	226	247	300

子どもの「生きる力」は、多様な人々と関わり、多様な場で、様々な経験を重ねていく中で育まれるものです。

しかしながら、価値観やライフスタイルが多様化し、社会が急速に変化する中で、家庭や地域での教育が困難になっていると指摘されている現在、コミュニティの再構築を通じて、子どもの学びを支える必要があります。

そのため、前計画では学校・家庭・地域の連携を進めると同時に、地域ぐるみの教育活動を支援することにより、家庭や地域の教育力向上に努めました。

基本目標「家庭や地域の教育力向上」の指標「公開講座の講座数」は目標値には届いておりませんので、今後も引き続き「地域の教育力の向上のための事業」を各公民館で実施する必要があります。

※7 子どもサポート事業

子どもたちの豊かな人間性や社会性など「生きる力」を育むため、家庭、学校、地域及び社会教育施設が連携・協力し、人と人とのネットワークを構築しながら、地域ぐるみで子どもたちを育てる体制を作ることを目的とする事業。市内を14地区に分け、地域の特色を生かした様々な体験活動を提供する「地域子ども応援団活動」と学校教育を支援する「学校応援団活動」を大きな二つの柱として取り組む事業。

※8 公民館登録グループ

川越市公民館グループ育成要綱に基づき、公民館の目的に沿い、登録されたグループ。

③基本目標「ライフステージ※⁹、社会変化に応じた学習機会の充実」

指標	単位	実績値 H28 年度	実績値 H29 年度	実績値 H30 年度	実績値 R 元年度	目標値 R 2 年度
協働による文化芸術事業件数 (文化芸術団体等との協働による文化芸術事業年間件数)	件	9	8	11	10	10
国際理解講座等の年間延べ受講者数(国際交流センターでの国際理解講座、日本語学習ボランティア講座等の人材育成講座の年間受講者延べ人数)	人	1,861	2,340	1,746	1,524	1,500

生涯にわたっていきいきと充実した生活を送るためには、人生の各時期において、発達段階に合わせて学ぶことが必要です。また、現代社会は急速に複雑化しており、様々な現代的課題に応じた対策や学習が必要となります。

そのため、前計画では市民一人ひとりが生涯学習を通じて心身共に健康で生きがいを持って生活できるよう、各課題やニーズに応じた学習機会の充実に努めました。

前計画の基本目標「ライフステージ、社会変化に応じた学習機会の充実」の指標「協働による文化芸術事業件数」の実績値は順調に推移しています。また、今後も多文化共生に対する市民意識の一層の向上を図るため、国際理解講座等の更なる充実に努める必要があります。

※9 ライフステージ

人間の一生における児童期、青年期、成人期、高齢期などのそれぞれの時期。

④基本目標「身近な学習施設の整備・充実」

指標	単位	実績値 H28 年度	実績値 H29 年度	実績値 H30 年度	実績値 R 元年度	目標値 R 2 年度
文化施設の利用者数（やまぶき会館・西文化会館・南文化会館・川越駅東口多目的ホールの年間利用者数）	人	301,354	280,134	282,212	262,100	321,000
市立図書館での市民一人当たりの貸出数（市立図書館での市民一人当たりの年間貸出数）	冊・点	4.76	4.63	4.58	4.35	5.17

生涯学習の推進において、学習施設の充実を図り、各生涯学習関連施設間の連携を整えることは不可欠です。

そのため、前計画では各生涯学習関連施設において実施する講座やイベントの充実を図ることで、多様化する市民の学習ニーズに応えけるとともに、市民の自主的な活動の支援を行い、市民の身近な学習施設の充実に努めました。

前計画の基本目標「身近な学習施設の整備・充実」の指標「文化施設の利用者数」、「市立図書館での市民一人当たりの貸出数」は、目標値に届いていないことから、今後も引き続き身近な学習施設を充実させる必要があります。

4 課題

社会環境の変化、川越市の現状から得られた本市の生涯学習にかかる課題は次のように整理されます。

- 1 多様化する学習ニーズに対応した学習機会の整備
- 2 家庭や地域の教育力の向上
- 3 誰もが取り組める生涯学習の環境整備
- 4 積極的な情報提供ときっかけづくり
- 5 生涯学習関連施設の周知と魅力づくり